

2023年7月5日

学校法人三幸学園  
東京ビューティーアート専門学校  
校長 菅井 健治 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 伊藤 隆充

### 学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 伊藤 隆充 : CYANDELUCCA 代表
- ② 安部 一美 : VINGT NAIL ディレクター
- ③ 石川 茜 : FAVORIX BEAUTY 株式会社 経営企画室 主任
- ④ 平井 宏子 : SANKO日本語学校東京 専門課長
- ⑤ 齊藤 貴雄 : 飛鳥未来きずな高校お茶の水キャンパス キャンパス長
- ⑥ 中島 えり : 東京ビューティーアート専門学校卒業生

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年5月30日（会場 東京ビューティーアート専門学校 4階実習室）

#### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2022年度 学校法人 三幸学園 東京ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 島田 美穂子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 伊藤 隆充

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

教育理念の基、社会で必要とされる人材育成の強化を図り、美容業界の現場で活躍できる生徒を多く輩出するために、在学期間中から現場を意識した指導した。また、様々な授業を通し心の成長に繋がる機会を設け、あらゆる現場で対応していく力を養った上で、自身の就職先に似合った力を付けていく指導をおこなった。

#### 1. 退学率低減

- ・ 学生に対して初期対応を心掛け、学科会などでの情報共有の強化を図った。
- ・ 通信制高校出身者や既卒者が登校しやすい環境設定を工夫した。  
→ 退学率低減につながらず、今後の課題として更なる取り組みを検討が必要。

#### 2. インターンシップの導入

- ・ 事前に企業との取り決め内容の詰めや生徒への落とし込みの不足が見受けられた。  
→ 詳細な事前打ち合わせの強化を図っていく。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員：退学に至った経緯・時期を見極めて、早めの指導が必要に感じる。

また、出願時期が遅い生徒に対しても目的意識の薄さが見受けられる傾向がある為、フォローが必要である。(美容科・トータルビューティー科)

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

前年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響により対面での保護者会を実施できず、保護者（新入生含）へは例年と異なった伝え方となった。学校教育への理解・浸透が、対面実施と同等となるよう工夫が必要。

#### ② 今後の改善方策

入学時オリエンテーション研修後の継続した指導・教育を強化する。就職対策・自己啓発を目的として授業とも連携し、校舎内での掲示物や普段の学校生活から、教育理念を伝え続ける。  
社会情勢は変化し続けている為、業界のニーズに着目し続け、情報収集に努める。

#### ③ 特記事項

新入生対象の入学時オリエンテーション研修にて、学校の理念・目的・育成人材像を周知し、個々の目標設定を普段の学校生活において実践できるようにしている。

入学前の保護者説明会をオンラインにて実施し、書面だけではなく言葉で新入生及び保護者に教育理念や学校生活に関する説明を行った。

教職員へは定期的に三幸学園のミッション・ビジョンを浸透させる機会を設け、継続的に実施している。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

中島委員：自身の入学時のオリエンテーションの記憶はしっかりとあり、友人関係を気付くことが出来たが、今の生徒達は学校に対しての愛着は薄らいでいるように見受けられ、コロナ禍の影響なのか友人間関係についても希薄になってきている傾向がある為、配慮が必要。

（美容科・トータルビューティー科）

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### ① 課題

運営組織・役割が明確化されてはいるが、適材適所での業務分担や業務の効率化を図り、個々の業務バランスを見た割り振りの必要性がある。

教育活動の積極的な情報公開を行う。

### ② 今後の改善方策

教職員の指導・実務スキル向上のため、研修を充実させ、より多くの教職員を巻き込んで打合せや意見交換できる場を提供する。また、時間確保や適材適所で業務分担をするため、授業数や校務分掌の工夫を行う。

### ③ 特記事項

web 出席簿を導入し、学生の出欠席を一括管理できる体制を整えた。

教職員への案内は学習管理システム(Sanko Gate)および Microsoft Teams(アプリ)の二つを併用活用してタイムリーな情報提供・ペーパーレス化を図っている。

その他、勤怠管理システムの入力、経費精算システムの利用、給与明細の電子化などシステム化を図っている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

伊藤委員長： サロンにおいても生産性が低くならない程度に、無駄を省く努力をしている。

学校運営においても、若手に任せ考えさせることが必要。(美容科)

石川委員： 手をかけてくれているか＝リスペクト(信頼)につながっているように感じる。

上司が若手スタッフをしっかりと見ている店舗は離職が少ない。

さらに、仕事が終わったら、仕事の話はせず、メリハリをしっかりとつけ、ONとOFFをはっきりと分けることが今の時代的に大切。(トータルビューティー科)

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ①課題

オンラインやオンデマンドによる授業におけるフォロー体制の確立が必要である。  
新任教員の教務力向上に努めていく。

#### ② 今後の改善方策

デジタル教材など様々な新しい試みが円滑な授業展開につながるように、教員への説明やフォローアップの強化を行い、理解を深めるようにしていく。

教務研修や OJT 指導者の配置など人材育成にも取り組んでいたが、まだ十分とは言えない。引き続き体系的な教育を推進できるシステムの構築を進める。

学科チーフや教科チーフ間での学科会・教科会内容の共有方法をより具体的に構築化していく。

#### ③ 特記事項

教員向けのオンライン授業等の為の事前研修実施や資料を作成、配布している。

教員業務スキルアップ研修や教員リーダーシップ研修を実施している。

学生を対象とした各種アンケート結果については、会議にて全教職員へ共有し、今後活かしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

安部委員：地方出身者へはサロン見学と受験が一緒になってしまうことがある為、何度も来るのが大変な学生にとって、VR(デジタル教材)で事前にサロンを経験できることは役立つ上に、就職活動へのハードルが下がるように感じる。(美容科・トータルビューティー科)

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

安定した求人票・採用枠の確保をするために企業様への働き掛け(企業理解)や姉妹校間の情報共有を強化することが必要である。

退学率低減の継続と資格試験合格率の更なる向上を図る。

##### ② 今後の改善方策

就職担当教員間での打ち合わせを密に実施し、会議にて就職率を常に共有する。

退学率減少のため、学年チーム担任制をより強化し、教務会議での情報共有をこまめに実施することで、多くの視点から問題点を把握し早期対応を可能としていく。

また、2年生の退学率増加が懸念事項のため、人間関係におけるトラブルについては、カウンセラーの力を借りてカウンセリングの機会を増やし、行事等を通して「共同する力」を伸ばせるよう指導していく。

##### ③ 特記事項

企業様と連携し、就職ガイダンスや企業説明会を数多く実施した。

卒業生向け同窓会サイト「Sanko Link」のHP及びInstagramの活用や支援の取り組みを実践している。

全国姉妹校と資格試験対策の情報共有を行い、合格率向上のために模試を全国で実施している。

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

中島委員：自身の学生時代も友人関係のトラブルで退学してしまった学生もいたこともあり、メンタル面でのフォローとしてカウンセリングなど活用できることは良い。(美容科・トータルビューティー科)

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

これまでのコロナ禍の学校生活により多様化する学生へ対応する体制づくりを行う必要がある。  
卒業生の就職状況の把握とキャリア支援、中途退学者への支援体制も検討していく必要がある。

### ② 今後の改善方策

担任だけではなく複数の教員にて学生をサポートする体制を構築する為、教員間の情報共有強化を図る。  
チーム担任制により、様々な形で生徒へのアプローチをしていく。  
学校在籍時より、卒業生向け同窓会サイトの存在を広く周知し、有効活用する。

### ③ 特記事項

ハイパーQU アンケート(適性診断)を実施し、退学予備軍の把握を行い、早期対応している。  
姉妹校と合同で複数名のカウンセラーの先生による相談窓口を設けている。  
学生の経済的側面に対する支援体制として、奨学金や各種教育ローンの案内、学生の生活環境への支援体制として、提携している寮等の案内を実施している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員:通信制高校出身者は、専門学校進学へのハードルが高く、高校の担任が覚悟を持って進学しないと伝えているが実際に理解しているか疑問があり、入学後のギャップが多く感じられている様子がある。一度失敗して心が折れてしまうと這い上がる力がないので、フォローの強化が必要である。(美容科・トータルビューティー科)

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

インターンシップ受け入れ先企業との事前の取り決め内容について、互いに差異が出てしまった。

### ② 今後の改善方策

有給インターンシップの受け入れ企業に教育体制を理解いただくため、学生受け入れに伴う詳細な取り決めの提示等を綿密に行う。

### ③ 特記事項

VRを導入し、より深い学びを提供できるようになった。

避難訓練を実施した。

防災マニュアルのハザードマップを生徒がいつでも閲覧できるようデジタルツールとしている。

Wi-Fi環境の整備を行いルーターの増設をした。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

伊藤委員長：インターンシップの受け入れには、双方のメリットが必要なので、就職を意識したもので

あってほしい。受け入れても任せられる業務が少ないため、就職したいサロンに対して実施したほうが、学生にとっても実のあるものになって良い。(美容科)

安部委員：有給インターンシップを受け入れる場合、給与等と共に勤務時間など詳細な提示をして

お互いに食い違いが無いようにすることが受け入れの基本となる。(トータルビューティー科)

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

適切に募集活動は行われているが、未知の美容業界での就職に対して不安を持ち、大学進学を勧める保護者や高校がある為、本校の教育だけではなく業界全体を理解していただく必要がある。

### ② 今後の改善方策

保護者や高校側に対して学校教育に理解をいただき、業界や専門学校の状況を知っていただき、専門学校進学を前向きに検討できるよう説明を行っていく。また、高校側に対し、学園内の広報専門部署と連携を図り、同様に業界の動向や専門学校教育の理解を図れるよう働きかけていく。

### ③ 特記事項

体験入学・校内・会場ガイダンスを実施する。  
オンラインでの実技体験のオープンキャンパスを実施。  
各種イベントの実施及び告知をする。  
教育訓練給付金制度の紹介を行う。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員：通信制高校の通学スタイルと専門学校の学び方にはギャップがあるので、その覚悟を持って進学するよう指導を行っているが、学生たちにとっては、「想像以上に大変」ということが退学に繋がっている。進学後の退学については、高校としても大きな課題と捉えており、専門学校と高校とのより強い連携が必要。（美容科・トータルビューティー科）

平井委員：留学生に対し、なるべく専門学校の学び方（時間が長くなるのでアルバイトの時間は少なくなるなど）を進学前に伝えるようにはしているが、理解しても自分事に置き換えての想像ができず、心が折れてしまい、這い上がれなくなってしまう。（美容科・トータルビューティー科）

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④学校関係者評価委員会コメント

なし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

時間外労働については、より一層改善する必要がある。

### ② 今後の改善方策

人員の確保し、個人の業務負担軽減を図る。

### ③ 特記事項

個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について理解のための研修を実施している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

新型コロナウイルス感染症の為、積極的な地域貢献活動が実施できていなかったが、今後は少しずつ従来実施していたスチューデントサロンなどを実施していく。

### ② 今後の改善方策

サロンワーク授業の工夫を図り実施を検討していく。

### ③ 特記事項

コロナ禍以前は、ケアセンター・地域イベントからの依頼により、ハンドマッサージやネイルケア・メイク技術の提供などボランティア活動を実施している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

石川委員：就職受入れ先として、接客マナーの強化となる実際のサロン運営はぜひ実施していただきたい。  
（トータルビューティー科）

## (11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

### ① 課題

留学生の受け入れ体制をさらに整え、留学生同士の交流を活発にしていく。

### ② 今後の改善方策

留学生向け説明会の実施や担当者の設置を行う。

日本語学校との提携強化を行う。

### ③ 特記事項

留学生取次者を設置している。

留学生サポートセンターと連携している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

平井委員:美容に興味がある留学生が多いが、就職希望者も多いため、結果的に美容専門学校への進学に至らないケースが多く、日本で働きたい、日本にいたい学生が多い。

外国人美容師育成事業(特区)に申請をしているサロンが増えてくれることはありがたい。

(美容科)

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・2022年度の自己評価の報告に対して、委員の方々から承認をいただいた。

・2023年度の目標として引き続き、教育理念である「技能と心の調和」を念頭に教育や人材育成を行っていく。

在学時の学びに対する指導に留まらず、生活面や就職活動指導なども含め、現場で活躍が出来る接客スキルを身に着けるため、各授業において指導を強化していく。